

2020年東京オリンピック・パラリンピックにおけるホストタウン申請について

牧之原市では2020年東京五輪の追加種目に決まったサーフィン競技の事前合宿の誘致を目指し、米国と中国を対象国として、10月26日、ホストタウン第3次登録を目指し申請を行った。

◇ホストタウンとは

政府においては、大会の開催により多くの選手・観客等が来訪することを契機に、地域の活性化を推進するため、事前キャンプの誘致等を通じ大会参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図る地方公共団体を「ホストタウン」として、全国各地に広げることとしている。現在までに91件の自治体が登録され、五輪の効果を全国に普及させ、観光振興や地域創生、教育につなげる事業を展開している。

◇交流のイメージ

- ・オリンピック・パラリンピックを契機とした関係者等の呼び込み
- ・オリンピック・パラリンピアンとの交流
- ・相手国選手及び関係者との交流（外国を知り、日本を伝える）

◇牧之原市のアピールポイント

- ・大茶園と美しい海に抱かれた温暖で自然豊かなまち
- ・富士山静岡空港から海岸まで車で20分の利便性（中国からの観光客で賑わう）
- ・サーフィン競技における全日本クラスの大会開催の実績多数
- ・充実したサーフィン関連産業

◇交流の相手国・地域

[米国]

平成27年12月、人的つながりを活用し、西原市長が保坂世田谷区長を訪問した。「サーフィン競技」が正式種目に採用された折には、アメリカオリンピック委員会側へ牧之原市の紹介や情報提供を要請している。

また5月には市長が訪米し、国際サーフィン連盟 フェルナンド・アギーレ会長と会談するなど、関係者（機関）等へ積極的な働きかけを行っている。

[中国]

平成28年9月、中国大使館関係者から「ホストタウンでの受入、またスポーツ交流を通じての相互理解」の希望があった。その後も大使館への訪問等を通じて積極的な働きかけを行っている。

また、富士山静岡空港を利用した中国人観光客や教育旅行団も多く牧之原市を訪れ文化・スポーツ等の交流を行っている。

◇交流の対象となる競技等

牧之原市ではビーチスポーツを活かした地域活性化を図るため「官民連携によるビーチスポーツを活かした観光まちづくり事業計画」を進め、年度内の策定を目指している。

サーフィン等を対象競技とした、このホストタウン構想は上記事業計画にも合致し、東日本大震災以降、沿岸部の人口減少が懸念されているなか、2020年東京オリンピック・パラリンピックを契機として、他のビーチスポーツも含め、若者の誘客や沿岸部の再生を図っていく。

◇これまでの庁舎内検討会議等

平成28年4月	構想における勉強会	(担当者によるワークショップ)
7月	〃	(市長、副市長、理事、関係部課長 等)
8月	〃	(関係部長 等)
10月	〃	(関係課協議)

◇参考：オリンピック開催に向けた県内市町等の状況

- ・第1次ホストタウン登録（平成27年12月申請）は、全国で69件の申請に対して44件が登録され、うち県内では5市が登録された。なお、継続審査となった25件は「相手国との交渉の進捗状況を待つこと」とされている。

三島市（米国：バレーボール）
焼津市（モンゴル：レスリング）
掛川市（台湾：アーチェリー）
藤枝市（イタリア：射撃）
伊豆の国市（モンゴル：柔道）

- ・第2次ホストタウン登録（平成28年5月申請）は、全国で83件の申請に対して47件が登録され、うち県内では3市が登録された。

静岡市（スペイン、台湾：複数の競技種目）
浜松市（ブラジル：複数の競技種目）
御殿場市（台湾：サッカー）